

沖縄県護国神社社報

# うむい27号

終戦七十五年

## 社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の想い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。







# 宮司 挨拶

沖縄県護国神社 宮司 加治 順人

新しい御代をお迎えし、まず以って皇室の弥栄をお祈りし、新型コロナウィルスが一日も早く終息することを祈念申し上げます。

さて、終戦七十五年を迎え、沖縄では新聞、テレビなどで戦争体験談が取り上げられています。当時を知る人が少なくなる中、生の声を伝えることはとても大切なことと思います。

しかし、体験談は「地上戦」としての沖縄戦が殆どです。周知のように沖縄戦は住民も戦禍に斃れ四人に一人が亡くなった悲惨な戦いでした。

沖縄は「捨て石」で、本土防衛の時間稼ぎとして切り離された戦いであつたといわれています。昭和二十年に入り、制空権、制海権を失った陸海軍は沖縄守備隊に援軍を送ることや装備を増強することは困難でした。

しかし、「捨て石」ではなく、大勢の兵士が「沖縄を守るため」九州や台湾から「特攻」で戦死していったことはあまり語られていません。

空から沖縄に向かった特攻隊は、海軍が九百四十機、陸軍が八百八十七機で、海軍二千四十五名、陸軍千二百二十名が戦死しました。

特攻隊員は、幾戦を経験したパイロットや飛行教官だけではなく、日に日に戦況が悪化する中、ベンを操縦桿に持ち替え最前線に出撃していった二十歳前後の優秀な学生たちも多かったです。

彼らは最初から特攻隊員としてではなく、そのほとんどが空にアコがれて飛行隊員となり、戦局の悪化に伴い特攻隊員となりました。

特攻隊員となった後、全国の

飛行学校で厳しい訓練を経て新田原、鹿屋、知覧、そして台湾等の基地から飛び立っていきました。

日々の訓練の中、特攻隊を志願した隊員らはどのような想いだっただけでしょう。

此度、三重県伊勢市の岡出とよ子様のお申出で、隊員が残っていた辞世の句三十四首が展示されることになりました。

岡出様は隊員用の宿舎を営む実家で五歳の時に、近くの陸軍明野飛行学校で特攻隊としての訓練に明け暮れる隊員たちと共に過ごし、九州へと飛び立って行く姿を見送りました。その際に隊員達が残していった辞世の句を大切に保管し、遺族へお返しする活動を行ってきました。

彼らが残した句は、ほとんどが勇ましい言葉で綴られています。しかし、一つ一つの言葉には、

数時間後に「沖縄の海」で戦死する運命を受け入れつつ、生きられない先を後世に託し、今という時間を必死で生きていることを残したいという想いが込められているように感じます。

「現在死未生」

誠百十五飛行隊 大須賀誠  
「人はみな後に続くを信じてつ雲間をさしてわれは消えゆく」  
金子 彰

特攻隊員が託した想いを、今を生きる私たちに伝えるべく、終戦七十五年記念「沖縄の特別攻撃隊」展を開催致します。特別展では、辞世の句三十四首を始め、空、海、陸の特攻に関する絵画や資料をパネルにして揭示致します。是非皆様お越し下さい。

# 御代替り

みよがわり



令和の御代を迎えまもなく一年が経過致します。これまで「御代替り」に於いて様々な儀式が行われて参りました。立皇嗣の礼を以って一連の儀式が終わります。これまで神社に於いても「踐祚改元奉告祭」「即位礼当日神社に於て行ふ祭祀」「大嘗祭当日神社に於て行ふ祭祀」等その都度祭典を齎行して参りました。天皇御一代一度の重要祭祀である「大嘗祭」では悠紀地方、主基地方の齋田からの新穀のほかに、「庭積机代物」として全国からの特産品が献納されました。沖縄県からはゴーヤー、クロアワビタケ、乾燥モズク、乾燥アサガオが献納されました。「大嘗祭当日神社に於て行ふ祭祀」では、同じ献納品をお供えし齋行致しました。

また、社頭では奉祝の記帳も行いました。令和の御代が末永く続き、日本が発展する事をお祈りいたします。



神社祭典にてお供えされたゴーヤー他(写真左)とクロアワビタケ(写真右)



# 例大祭 慰霊祭 みたま祭り



## 第六十一回春季例大祭

四月二十三日第六十一回春季例大祭が斎行されました。先ず始めにご英霊に対し黙祷を捧げ、引き続き国歌斉唱を行いました。祝詞奏上に続き大祭委員長外間盛善代表役員、沖縄県遺族連合会宮城篤正会長による祭文が奏上されました。巫女による「みたま慰めの舞」が奉奏され、航空自衛隊南西航空音楽隊による演奏も奉納されました。また祭典前には、裏千家淡交会沖縄支部のご呈茶にて参列者をもてなし、神楽殿に於いては恒例の「田場盛信民謡ショー」でお楽しみ頂きました。



## 「あゝ、特攻」勇士之像慰霊祭

昨年四月二十三日に除幕された「あゝ、特攻」勇士之像の慰霊祭が春季例大祭の後、斎行されました。特攻という空からというイメージがありますが、沖縄では空の特攻を始め海からの特攻、さらに陸での特攻というように多くの方が特攻で散華されています。これはここ沖縄の地ならではの事柄です。これからも毎年斎行される慰霊祭を通じ、広く歴史を伝えて参りたいと思います。四月二十三

日午後は是非皆様のご参列をお待ちしております。

## 沖縄戦全戦没者慰霊祭

六月二十三日、沖縄戦全戦没者慰霊祭が斎行されました。祭典前に（一社）こどもカルチャーEducation舞ヨーガ・キッズ教師伊藤華野氏（元沖縄女子短期大学・現京都西山短期大学准教授）による舞ヨーガの奉納を頂き、しなやかな動きに拝殿が清められました。

正午、参列者一同にて黙祷を捧げ国歌斉唱、祝詞奏上に続き巫女による「みたま慰めの舞」が奉奏されました。慰霊電報をご奉告申し上げ厳粛のうちに斎行致しました。



また、「第九回島守・防人に感謝する集い」が今年も祭典終了後、社務所大会議室にて行われました。続いて拝殿にて「沖縄殉国学徒顕彰 七十四年祭」が宮司斎主のもと斎行されました。沖縄県にとって慰霊の日は大変重要な日であり、県内は休日となります。糸満市摩文仁の平和祈念公園では例年沖縄県主催の戦没者追悼式が行われ、本年も安倍首相がご出席されました。

## 終戦記念日みたま祭り

八月十五日、七十四回目の終戦記念日を迎え正午より、みたま祭りが英霊にこたえる会沖縄県本部共催、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部後援にて斎行されました。正午に黙祷を捧げ、続いて参列者と共に全国戦没者追悼式（日本武道館於）にご臨席されておられる新帝陛下の御言葉やラジオから拝聴致しました。国歌斉唱、祝詞奏上に続き英霊にこたえる会沖縄県本部照屋苗子会長が祭文を奏上しました。巫女による「みた



ま慰めの舞」が奉奏され、厳かに斎行されました。毎年恒例となっております祭典後の講演会は旧暦の送盆（ウークイ）と重なった為中止致しました。沖縄では旧暦で行う文化が根強く残っており、とりわけ旧盆は大きな年中行事となっています。

## 第六十一回秋季例大祭

昨十月二十三日第六十一回秋季例大祭が斎行されました。前日は即位礼正殿の儀が厳かに斎行され、新帝陛下が国内外に即位を宣言された日とあって、祭典での「君が代」斉唱は感慨深い光景となりました。ご英霊に黙祷を捧げ、祝詞奏上に続き大祭委員長外間盛善代





# 社務 日誌抄

平成31年4月～  
令和2年3月

## 4月

- 10日 天皇皇后両陛下御結  
婚六十年奉祝祭
- 11日 宮崎県神道青年会正  
式参拝
- 22日 宵宮祭
- 23日 第六十一回春季例大祭
- 23日 あ、特攻勇士之像慰  
霊祭
- 23日 高雄紅毛港保安堂正  
式参拝
- 29日 昭和祭
- 15日 沖縄県祖国復帰記念祭

## 6月

- 8日 義烈空挺隊慰霊祭  
参列
- 10日 滋賀県遺族会正式参拝
- 13日 旧海軍司令部壕慰霊  
祭参列
- 17日 しづたまの碑慰霊祭  
奉仕、参列
- 20日 千葉県神道青年会正  
式参拝
- 20日 阿合宗沖縄道場戦没  
者慰霊祭奉仕
- 22日 勇魂の碑慰霊祭奉仕
- 22日 海上挺身隊碑慰霊祭  
奉仕
- 22日 埼玉県遺族連合会正  
式参拝
- 23日 沖縄戦全戦没者慰霊祭
- 23日 殉国沖縄学徒頭彰  
七十四年奉仕
- 23日 白梅慰霊の会正式参拝
- 30日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 30日 全国ソロン会正式参拝

## 8月

- 4日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 8日 第十二回総代会
- 15日 終戦記念日みたま祭り
- 15日 幸福実現党沖縄県支  
部慰霊祭
- 18日 麗泉書道教室正式参拝
- 22日 小桜の塔慰霊祭参列
- 30日 天下大祓式
- 4日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 8日 終戦記念日みたま祭り
- 15日 幸福実現党沖縄県支  
部慰霊祭
- 18日 麗泉書道教室正式参拝
- 22日 小桜の塔慰霊祭参列
- 30日 天下大祓式

## 10月

- 6日 表千家同門会正式参拝
- 12日 臨時大祓式
- 12日 普天満宮例大祭参列
- 13日 生天光神明宮例祭参列
- 17日 神嘗祭遙拝式
- 17日 波上宮奉賛会秋大祭  
参列、奉仕
- 18日 靖国神社御創建一五〇  
周年秋季例大祭参列
- 19日 浮島神社例大祭参列
- 20日 沖縄神社例祭参列
- 20日 安里八幡宮例大祭参列
- 22日 修養団捧誠会神石  
四五年祭
- 22日 即位礼当日神社に於  
て行ふ祭祀
- 22日 宵宮祭
- 23日 第六十一回秋季例大祭

## 11月

- 1日 群馬の塔慰霊祭参列
- 2日 群馬県遺族の会正式  
参拝
- 2日 沖縄県煎茶道協会正  
式参拝
- 3日 明治祭遙拝式
- 4日 因伯の塔慰霊祭奉仕
- 5日 山口県遺族連盟正式参拝
- 5日 静霊奉賛会、静岡県  
遺族会正式参拝
- 8日 日本和裁士会沖縄県  
本部針祭
- 11日 龍華会 田村君江様  
正式参拝
- 13日 JYMA日本青年遺  
骨収集団正式参拝
- 17日 祈年祭
- 18日 山形の塔慰霊祭参列
- 18日 山形神社正式参拝
- 18日 なにわの塔慰霊祭参列
- 20日 全国護国神社青年壯  
年神職研修会・神社  
本廳直轄研修会時局  
対策研修会 出席
- 20日 神道政治連盟大阪府  
本部正式参拝
- 23日 天長祭
- 26日 山梨県神道青年会正  
式参拝
- 27日 甲斐の塔慰霊祭参列
- 28日 神宮大麻曆頒布終了  
奉告祭 参列 奉仕

## 献茶式



花月菴家元田中香坡氏(10月27日)



小笠原流煎茶道5代目家元小笠原秀道氏(9月29日)



12月14日

- 6日 岡山県遺族連盟正式  
参拝
- 7日 静岡の塔慰霊祭参列
- 7日 千葉県遺族会正式参拝
- 8日 前田高地平和の碑慰  
霊祭奉仕
- 8日 沖縄甲斐の塔慰霊巡  
拝団正式参拝
- 8日 佐賀県遺族会正式参拝
- 9日 空の神兵頭彰会正式  
参拝
- 9日 長崎県戦没者慰霊奉  
賛会正式参拝
- 10日 長崎県連合遺族会正  
式参拝

- 10日 長崎の碑慰霊祭参列
- 10日 世持神社例大祭参列
- 10日 徳島県沖縄慰霊参拝  
団正式参拝
- 10日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 11日 青森県遺族連合会正  
式参拝
- 11日 みちのくの塔慰霊祭  
参列
- 14日 大嘗祭当日神社に於  
て行ふ祭祀
- 14日 広島県遺族会正式参拝
- 14日 岐阜県遺族会正式参拝
- 16日 高知県遺族会正式参拝
- 17日 奈良県遺族会正式参拝
- 17日 新潟の塔奉賛会正式  
参拝
- 17日 ひむかいの塔追悼式  
宮崎県参拝団正式参拝
- 18日 土佐の塔慰霊祭奉仕、  
参列
- 18日 ひむかいの塔慰霊祭  
参列
- 19日 茨城県遺族連合会正  
式参拝
- 20日 和歌山県遺族連合会  
正式参拝
- 21日 北海道連合遺族会正  
式参拝
- 23日 末吉宮例祭参列
- 24日 埼玉県遺族連合会正  
式参拝
- 25日 神奈川県遺族会正式参拝
- 27日 福島県遺族会正式参拝



正月の社頭風景

## 12月

- 3、4日 全国護国神社會九州  
地区宮司会出席
- 14日 秋篠宮皇嗣殿下、同  
妃殿下全国育樹祭ご  
臨席に伴いご奉迎
- 22日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 26日 神符守札清祓い  
並びに助勤者安全祈  
願祭
- 31日 大祓式・除夜祭
- 28日 ふくしまの塔慰霊祭  
奉仕
- 30日 兵庫県遺族会正式参拝

## 1月

- 1日 歳旦祭
- 3日 元始祭
- 8日 岩手県遺族連合会正  
式参拝
- 12日 沖縄県遺族連合会共  
催新春もちつき
- 15日 古神札焼納祭
- 16日 FC琉球必勝祈願
- 17日 熊本県遺族連合会正  
式参拝
- 19日 小緑地域振興会縁結  
び祈願
- 23日 普明会教団会長鹿島  
孝夫様正式参拝
- 25日 航空自衛隊那覇基地  
太鼓部「鼓風」奉納  
演奏
- 25日 琉球ブルーオーシャ  
ンズ必勝祈願
- 26日 日本会議沖縄県本部  
正式参拝
- 27日 戦没者慰霊の会  
櫻街道正式参拝

## 3月

- 1日 沖縄京都の塔奉賛会  
正式参拝
- 11日 創建九十周年記念事  
業第五回社殿造営  
委員会
- 20日 春季皇霊殿遙拝式
- 30日 令和元年度第二回責  
任役員会
- 8日 日本和裁士会沖縄県  
本部針祭
- 11日 龍華会 田村君江様  
正式参拝
- 13日 JYMA日本青年遺  
骨収集団正式参拝
- 17日 祈年祭
- 18日 山形の塔慰霊祭参列
- 18日 山形神社正式参拝
- 18日 なにわの塔慰霊祭参列
- 20日 全国護国神社青年壯  
年神職研修会・神社  
本廳直轄研修会時局  
対策研修会 出席
- 20日 神道政治連盟大阪府  
本部正式参拝
- 23日 天長祭
- 26日 山梨県神道青年会正  
式参拝
- 27日 甲斐の塔慰霊祭参列
- 28日 神宮大麻曆頒布終了  
奉告祭 参列 奉仕









# 特攻の兵隊さんと 暮らした五才の私

岡出 とよ子

この度、護国神社様の御配慮を頂きまして永年保持して参りました特攻隊兵士様の辞世の句、三十四首を収めさせて頂くことになりました。兵隊さんの御魂の導きを感じます。

私の両親は昭和十八年〜二十年頃特攻兵士学校指定の宿をしていました。後で聞いたのですが征空寮と聞いています。三重県伊勢市の近郊に明野航空特攻兵学校があり卒業すると将校さんになり民間の指定宿に滞在し知覧、沖縄に出発されたと聞いています。父の姓は酒徳で、当時四十代でしたが、兵役検査に合格出来ませんでした。それは背が低かったからでした。その事を悔やみ、国家に命を捧げる兵隊さんのお役に立ちたい一心で、当時食糧事情も良くない中、私財を足して兵隊さんに寄り

添いご馳走を沢山差し上げ、おじさん、おばさんと慕われていたと母から聞いています。

或る日兵隊さんが母に「おばさん、明日おふくろが着きます。」と話しているのを見ました。私は明日大きなふくろが着いておかしを貰えると思いきや、おばさんが着いてびっくり、がっかりした事を思い出します。夜は毎晩毎晩兵隊さんが替わっても大騒ぎの別れの宴でした。或る夜は酔っぱらった兵隊さんが二階から転がり落ち大騒ぎになった事を女中さん達によく話していました。翌朝両親を前に父の用意しました短冊に辞世を書かれたと聞いています。中には宿の思い出も書かれています。親への思い国家に尽くす思いが達筆に書かれ心が痛くなります。どん

な思いだったでしょう。玄関に両親、板前さん、女中さん一同に並び整列して行つてらっしゃいませとお送りしました。私も兵隊さんの前でチヨコンとお辞儀をしました。その時大きな長い靴をはいた背の高い兵隊さんがつかつかと私の前に寄りぐつと私を抱き上げ「とよ子ちゃん行つてくるよ」と、私を抱きしめました。ぐいぐいと腕が締められ痛いと言いたかったですが、五才の私は子供心に声を出してはいけなそうと思いましたが、今兵隊さんの心と思うと、とてもつらいっらい悲しい思い出です。今も両腕に痛みがあった事を覚えていて、行つてくるよと言われた兵隊さんはいつ帰つてきてくれるかとずいっと待っていました。三十年以上前に沖繩の摩文仁の丘にお参りしました。その時ああ兵隊さんはここに居たんだ、私のところに帰つてきてくれなかったんだと年月が前後してしまい一人で泣いてしまいました。とても悲しかったです。

真向かいにある「あゝ特攻」勇士之像に出会いました。御縁を感じました。早速加治宮司様に私のこれまでの事をお話させて頂き、この度このお許しを頂きました。皆様のお許しに感謝申し上げます。三十四首辞世の句遺族探しを三十年位前に五、六年致しました。出身県も判らず伊勢の明野兵学校に出向いたり、知覧にも参りました。知覧特攻平和祈念会館初代館長の板津様（元特攻隊隊員）にも大変お心を頂きました。四人様にお渡し出来ました。或る時新潟の役所に電話しました折、あなたと探している人の関係は？と聞かれました。私の心は通じませんでした。その時遺族探しはもう出来ない、私が遺族なんだ生き残った人が遺族だと悟りました。新聞に取り上げられ、テレビの取材も受けました。展示もしました。遺族探しの時、色々な事情の方、ご苦労もお聞きしました。長野県の方で九十六才の生涯を終わるまで二人の息子さんの御霊を祀り墓地以外にも二人の供養塔を畑に作り祀られた母の愛、その村では文集を

作り兵士を讃えられた事も聞きました。

ここへは私達夫婦もお墓参りをさせて頂き本人様の妹様から資料を頂きお付き合いしていましたが、最近電話が通じなくなりました。この本人様の辞世の句は「国家に楨幹を誓う」でした。全てを国に捧げるとい意味だと書の先生に教えられました。一緒に飛んで行かれた方の手帳にこの方の詩が残されていました。「功名何ぞ夢の跡、消へざるものは唯誠、人生意気に感じては、成否を唯が、



筆者の父 酒徳喜作(右)

あげつらふ」陸軍少尉〇〇〇〇でございます。

また或る時は同姓同名の兵隊さんがあり、徳島の方にお渡しした後教えて下さる方があり調べました処、京都大学卒業の方があり、前後の事からも本人様と判り徳島の方に訳を話して返して頂き、京都のお宅にお持ちして仏前にお参りさせて頂きました。身内の方より短い生涯の事をお聞きしました。早くにお母様を亡くされいよいよ知覧を出発しますの便りがきても誰も面会に行けなかった事、弟の部隊に所持品を預けたが大坂城下の軍の兵舎は丸焼けになり形見は何一つ亡くなりました。この辞世の句だけが形見になりましたと聞きました。その方の辞世は「吹けよ吹け吹け 風よ吹け 花よ散れ 散れ 花よ散れ 吾は風に誘われる花に非ず 馥郁愛惜せられて 散る花に非ず 諸葉の生長をこそ希ふ老花に過ぎ」でございます。また三人

一緒に飛び立たれました隊長さまの妹様への手帳が残され出発五分前の記されましたのをコピーで頂きました。「我ら明日を待つ身さ、されど明日は遂に来らざりき」在

世中お世話になった方々を一人一人思い出します。時間があります。ただ心から有難うございました。笑つてこれから床に入ります。おやすみ」「あんまり縁が美しい、死に行く事すら忘れてしまいうだ」「真青な空、ぼかんと浮ぶ白、六月の知覧はもうセミの音が夏を思わせる」(作戦命令を今聞く)「小鳥の声がたのしそう俺もこんどは小鳥になるよ」日のあたる草の上に寝転んで〇〇がこんなことを言っている。笑わせるなあ、本日十三時三十五分いよいよ知覧を離陸する、懐かしの祖国よ、さらば、使いなれた万年筆「かたみ」に送ります。

こんな悲しい文章があるでしょう、今この文を書く事がとてもつらいです。もう一文、生残られました特攻兵士の声を聞いて下さい。テレビ取材の時お会いしました方の句でございます。「とびたてぬ 不かくの涙かみしめて 雲間のともに ただ祈るなり」この方はエンジン不調で練成道場に帰り、死ぬのがお前の役目だった、なぜ帰ったと上官にきびしく叱責され、伊勢で順番を待つよう



5才の筆者(左)と妹 卓子(右)

に言われそのまま終戦を迎えたと話されました。さらに、子供の私を覚えて下さっていました。そして今まで苦しく生きてきたと遠くを見る様にお話されました。兵隊さんの大きな大きな愛と犠牲の元に今私達は生かさせて頂いています。二度とこんな悲しい事が子孫に起こりませぬ事をお祈りし、まして終らせて頂きます。

「いつてくるよ、帰らなかつた兵隊さん、五才の私、ずーっと待っていた。」  
「抱かれし特攻兵士 辞世の句 護国神社におさめ永別す」  
ありがとうございます。とよ子



◆奉納者御芳名

平成三十年四月(令和二年三月)  
(社務日誌掲載以外願不同・敬称略)

◆永代慰霊命日祭  
新規申込者

神奈川県逗子市 一戸 弥生  
滋賀県東近江市 松浦 友一  
岩手県胆沢郡 千田 力

◆永代慰霊命日祭御供

沖縄県那覇市 新崎 英美  
北海道札幌市 井上十重子  
北海道樺戸郡 鶴原 憲秀  
北海道函館市 伊藤 和子  
岩手県花巻市 瀬川 タエ  
熊本県山鹿市 岡部 典子  
福島県喜多方市 田中 昭二  
群馬県吾妻郡 関崎 勝治  
徳島県阿南市 幸田 純子  
埼玉県比企郡 福岡 英男  
北海道札幌市 高田 長巳  
大阪府大阪市 細田 拓彦  
鹿児島県鹿児島市 吉永 恵子  
熊本県熊本市 松尾 誠  
福岡県春日市 古賀富士子  
宮城県富谷市 菅原 義則  
北海道札幌市 北村 孝子

千葉県佐倉市 米澤 務  
愛知県豊明市 平野 克己  
石川県小松市 南出 修宏  
沖縄県石垣市 瀨名波長宏  
北海道日高郡 岡村 弘  
愛知県豊橋市 小野よし子  
愛知県稲沢市 下田 方子  
高知県南国市 島村 芳男  
島根県雲南市 勝部 昇  
群馬県甘楽郡 中村 三郎  
大阪府池田市 島村美哉子  
愛知県一宮市 後藤 修士  
千葉県市川市 松永 修巳  
茨城県取手市 大塚 幸男  
北海道北見市 十良澤義治  
滋賀県甲賀市 宿谷 長次  
愛知県豊橋市 牧 香里  
佐賀県小城市 藤島由紀子  
沖縄県那覇市 松尾 悦子  
北海道河東郡 高橋 仁  
宮崎県宮崎市 長友 信教  
沖縄県那覇市 新垣 信正  
神奈川県座間市 荒井 安代  
沖縄県那覇市 与那嶺 稔  
東京都江戸川区 岡田昌久宮  
城島仙台市 吉川 明宏

北海道雨竜郡 木村 寿文  
京都府八幡市 齋藤 亮司  
三重県伊勢市 村井 洋子  
北海道札幌市 加藤 勤  
愛知県海部郡 江積 栄一  
群馬県高崎市 江積 早智子  
群馬県高崎市 江積 節子  
群馬県富岡市 桜井 猛  
群馬県高崎市 濱松 昭  
沖縄県浦添市 小坂 シゲ  
静岡県榛原郡 富山 盛市  
沖縄県宜野湾市 當山 明美  
岐阜県岐阜市 江崎 喜美  
北海道札幌市 天野 喜美  
三重県志摩市 杉木 健  
岐阜県美濃市 交告 信義  
神奈川県鎌倉市 関 政子  
岡山県総社市 中村 和永  
北海道札幌市 中村 律夫  
北海道札幌市 櫻井 朋子  
北海道札幌市 岩井川 君子  
埼玉県桶川市 白田 智子  
北海道札幌市 櫻田スミ子  
奈良県天理市 中野 善史  
愛知県刈谷市 丹村 要二  
北海道北斗市 田島 義勝  
千葉県八街市 黒木陽一郎  
北海道北斗市 田島 義史  
愛知県豊橋市 牧野 笑子  
沖縄県那覇市 与儀 シゲ

◆賛助会奉納金

琉球会  
沖縄ツーリスト(株)  
オキコ(株)  
第一食糧(株)  
大晋建設(株)  
たけや旗染店

◆玉串料(伍千円以上)

沖縄県那覇市 久保田照子  
東京都練馬区 佐々木真太  
沖縄県那覇市 金城 逸男  
千葉県勝浦市 福山 富二  
宮城県仙台市 吉川 明宏

沖縄県浦添市 大嶺 直子  
東京都八王子市 富田喜代志  
勇魂の碑 仲村渠 良  
雄沖縄県那覇市 桃原 正昌  
岡山県岡山市 野上 鹿治  
東京都新宿区 岩崎 順哉  
熊野速玉大社宮司 上野 顯  
福岡県北九州市 茶屋本廣喜  
大阪市(株)コーニッシュ  
代表取締役 今村 聖三  
岐阜県岐阜市 金森 武士  
兼村 正美  
玉田 充  
大阪府池田市 広中 房男  
香川県高松市 鴨志田竜二  
國幸興發株式会社  
千葉県市原市 小出 鉄心

◆寄贈

千支琉球ガラス 友利 龍  
絵画 沖縄県煎茶道協会  
折り鶴アート 藤田 博久



◆寄贈書籍

「國の防人」  
「なぜ大東亜戦争は起きたのか」  
奥本 康大



◆首里城復興祈願 絵画奉納

昨年10月に焼失した首里城の復興を祈願して沖縄県煎茶道協会(佐久本陽子会長)より絵画のご奉納頂きました。同協会相談役の中村よね氏(前列右から3番目)が「再建のために一丸となった思いを形に残したい」と思い立ち会員、有志が賛同されたかたちで、絵画は那覇市在住の画家 新城征孝氏(前列左から3番目)に依頼し首里城を描いて頂きました。

靖國神社御創建  
150周年記念事業  
慰霊の庭「さくら陶板」完成

靖國神社では御創建150周年記念事業の一つとして外苑に整備された「慰霊の庭」に、「さくら陶板」を制作しました。ご祭神が歩まれた故郷の土を用いた桜をモチーフとした個性豊かな陶磁器が各都道府県47基建てられています。沖縄県は陶芸家 宮城秀雄氏(写真左)により本島北部の国頭郡の土を使用し制作されました。当神社にはレプリカの花弁一枚が展示されています。靖國神社を訪れる際には慰霊の庭をゆっくりお散歩下さい。



岐阜護國神社 宮司 宇都宮幸嗣  
新潟護國神社 宮司 齋藤 伸雄  
群馬県太田市 木村 保  
長崎県西彼杵郡 田中トミヨ  
牧志公設市場衣料部  
沖縄県南城市 山城 幸治  
沖縄県うるま市 辻 直子  
宮崎県遺族連合会  
宮崎護國神社

御供物  
正面幕・樽酒 ジーマ(株)  
正面幕・樽酒 (株)ジーマックス  
泡盛 久米島の久米仙  
鶏卵 沖縄鶏卵販売(株)  
生花 蘭フラワー  
献華 MOA山月・光輪花  
写真 フォトリブラザ  
もち米 沖縄県神道青年会  
鮮魚 根布谷好則



# 特集



沖縄県護国神社は昭和11年の創建から数え、今年で85年目を迎えます。特集「沖縄県護国神社の歩み」と題し、11回にわたって神社の創建から現在までを紹介していきます。

昭和34年11月 建立された仮社殿

## 沖縄県護国神社の歩み 第四回 仮社殿の建立

護国神社は昭和十一年に招魂社として設立し、昭和十四年に沖縄県護国神社と改称、昭和十五年二月の紀元二千六百年事業の筆頭として沖縄県並びに那覇市により境内が整備され、県が護持する「縣社」として名実ともに県を代表する神社であった。

しかし、昭和二十年の沖縄戦で奇跡的に拝殿、本殿は軽微な損傷であったが、その後の混乱により荒廃した姿となっていた。

境内地は小中学校として使用され、バラック小屋の校舎が建てられていた。社務所は那覇港湾作業者のために設置された「みなと村」の村長である國場幸太郎氏の私邸となっていた。

人々の生活が少し落ち着いた昭和三十年代に入り、遺族や戦友会等から護国神社再建の声が高まってきた。

その声を受け、昭和三十二年

十月沖縄市町村会の支援の下「靖國神社奉賛会沖縄地方本部」が発会し、安里積千代が会長に就任した。発会にあたり名称を「靖國神社」としたのは、靖國神社を仰ぎ、護国神社はその分社的な神社として再建しようという意図があったためとされている。

靖國神社奉賛会沖縄地方本部の働きかけで、那覇市内の会社、団体、個人から奉賛金が集まり、昭和三十四年に仮社殿が建立された。その際、神社職員の遺族が戦中から戦後にかけて護持してきた御霊代が十四年ぶりに遷座し納められた。

また、沖縄戦で亡くなった方々を祀る為、全国の県知事にあて、奉賛会会長名で戦没者名簿の提供を願い出た。

その趣旨が、現在の護国神社御祭神の礎となっているので、要請文を紹介したい。

陳者当地護国神社を復興再建し本土各府県同様に英霊を合祀したいことにつきましては数年前から関係者並に（ママ）当地遺族の願いでありましたが、諸般の復興がおくれてゐるため未だ本格的な神社復興の機に至らず一萬七千余坪の敷地と旧神社の礎石が荒廃のまゝとなつて実に残念に存する次第であります。



垣花中学校卒業写真（現存する境内大燈籠前）

然る処本年四月仮の施設ながら神殿及び社務所を建立、英霊合祀のため最少限度の施設ができましたことは遺族と共に慶びにたえないところであります。

御承知のとおり沖縄は今次大戦中最大の激戦地で彼我二十数万の戦死者、戦争犠牲者のあつた現地沖縄島でありますので、此の地の護国神社は従来の神霊とは少々趣を異にし今次大戦において犠牲となつた本県出身者の御霊を加えるのみでなく沖縄島及びその近海空域において戦没された本土同胞の御霊も合祀する趣旨で来る十一月中旬ごろわざわざ靖國神社より池田権宮司以下御来島、当地護国神社で合祀祭を挙行する計画になっておりますので、勝手ながら実に恐縮に存じますが祭祀に間に合うように貴（府）県出身該当者名簿（止むを得ないときは何某外何柱の霊壘）御送付方お取り計らい下さいますよう御願ひ申し上げます。なお毎年御来島の日本遺族団からも神社復興のことと合祀のことについてはその都度熱心に要望せられておりますので附言致します。

昭和三十四年九月十八日

靖國神社奉賛会沖縄地方本部

会長 安里積千代

各府県知事 殿



垣花小学校卒業写真（後方に第2鳥居、社務所が写っている）

安里会長の依頼を請け、全国から沖縄戦戦没者名簿が届き、同年十一月十五日各県出身沖縄戦戦没者六万五千七百七十七柱を合祀し、齋主は靖國神社池田良八権宮司、祭員坂本定夫禰宜以下四名奉仕の下戦後第一回秋季例大祭が斎行された。

（つづく）



# 終戦75年 沖縄の特別攻撃隊展

## 特攻隊員 辞世の句34首

あんまり緑が美しい  
死には行く事すら忘れそうだ



とよ子ちゃん  
行ってくるよ

令和2年6月21日(日)~26日(金)

開館時間 / 9:00~16:30

場 所 / 沖縄県護国神社

拝観  
無料



※6月23日(火)(慰霊の日)

正午「沖縄戦全戦没者慰霊祭」斎行

二部講演会 講演者 岡出 とよ子氏

辞世の句提供者  
伊勢市在住 80才

お問い合わせ

TEL 098-857-2798 沖縄県護国神社

### 編集後記

沖縄に於いても新型「コロナウ  
イルス」が日増しに深刻化して参  
りました。一日も早く終息するこ  
とを願ってやみません。令和が  
始まり、終戦七十五年のこの年  
にご英霊に思いを馳せこの国難  
を国民一丸となつて乗り切りま  
しょう。

発行 令和二年四月  
発行所 沖縄県護国神社  
〒900-0026  
沖縄県那覇市奥武山町四四番地  
TEL 098-857-2798  
FAX 098-857-7917  
HP www.okinawa-sokoku.jp/  
編集担当 前原 万岐  
印刷所 株式会社近代美術

### 新職員紹介



巫女 高良 滯奈



主事 山川 恵